

岡山大病院

スリランカ初肺移植へ

大使館 月内にもチーム派遣

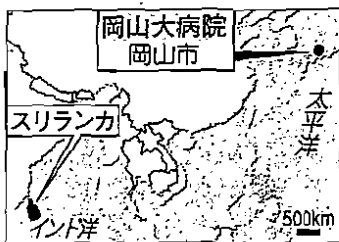
岡山大病院(岡山市北区鹿田町)は11月下旬にもスリランカに肺移植チームを派遣し、重い肺の病気に苦しむ患者に現地で生体肺移植を実施する準備を進めていることが8日、分かった。執刀する大藤剛宏・同病院肺移植チームは「実現すれば、スリランカで初の肺移植を岡山大病院肺移植チームが行うことになる」としている。



大藤剛宏チーフ

患者は同国の60代男性。肺に炎症が起き呼吸が困難になる間質性肺炎で、人工呼吸を行っている。大藤チーフが10日にスリランカに向かい、コロンボの病院で患者を診察するとともに、手術室や医療機器など現地の設備を確認し、移植の可否を判断する。

岡山大病院は、これまで日本で最多とな



る59例の生体肺移植を手掛け、脳死肺移植を合わせると88例に上る。この2年間に行った肺移植18例の生存率は100%と高い実績を残しており、「ぜひ執刀を」とスリランカ大使館から10月中旬に要請があった。

移植が可能なら呼吸器外科医、麻酔科医、ム15人が11月下旬に渡

航する予定。現地スタッフと協力し、現地のドナー(臓器提供者)2人からそれぞれ片方の肺の下部を切り取って移植する。

大藤チーフは「現地の様子をしっかりと確認し、足りない器具などをそろえ万全の態勢で臨みたい」としている。

同国では肝臓、腎臓移植は既に行われており、拒絶反応を防ぐ免

(内田圭助)

疫抑制剤などの薬剤もそろっているという。

地域の諸課題 ICTで解決

産学官研究会発足

情報通信技術(ICT)の

向上を図ろうと、岡山県、岡山市、岡山工科大学、社団法人システムエンジニアリング岡山(北区芳賀)は、「岡山情報通信技術研究会」(代表幹事・谷口秀夫同大工学部長)を設立した。

同研究会では、ICTの基礎利用、システム構築運用の各種技術について、意見交換し、2013年1月に1回のペースで開催。官が諸課題や役立つ情報を提供、学が効果的なICTを研究開発し、産が商品化することを最終目標とする。

今後、活動が軌道に乗れば、関連する他団体に対し、加入の打診を検討する方針。一方、同市は07年度、情報

分野に関する4年間の計画をまとめた「市情報化推進計画」を策定。具体的な事業計画を16のアクションプランにまとめ、今年7月には14年度末までの見直しを行った。

同研究会での活動は、アクションプランの一つ「産学官連携によるICT利活用の推進」事業の一環。ICT利活用を推進し、地域の強みを生かした地域産業全体の底上げに取り組み。

市情報企画課は「ICTによる地域の課題解決のアイデア、技術をこの研究会で見つけて、施策に生かしたい」と話している。

23.11 8

岡山日日新聞

3